大雄山線ができた背景

大雄山最乗寺への参詣鉄道として開業

最乗寺へのアクセスが不便だった

【東京・横浜方面から】

松田駅から徒歩または人力車・馬車で８km

【小田原駅】

徒歩または馬車で麓の関本まで９km、

そこから４kmの参道

- 地元の人以外は一泊しなければならない

鉄道建設の発起人（小田原在住最乗寺信者）

杉山清吉（せいきち）氏・千葉胤正（たねよし）氏が、

最乗寺の山主に依頼

- **講中（信仰者の集まり）の人たちに建設を呼びかけた**

大雄山線の歴史

1919年

12/9
蒸気鉄道敷設願を内閣総理大臣に提出

12/15
大雄山鉄道株式会社計画
仮定款を作成し、「大雄山鉄道株式会社」の商号で、資本金50万円で蒸気鉄道敷設を発表

【大雄山線建設計画】
路線計画問題で、小学生が学校をボイコットするほど揉めた
<案①>**小田原～飯沢～松田間**
酒匂川に架ける鉄橋費用が莫大なため断念
<案②>**小田原～飯沢～吉田島間**
資金不足のため断念
<案③>**小田原～飯沢間で狩川に橋を架けないで計画**
関本、雨坪（あまつぼ）、福泉（ふくせん）、和田河原、竹松、壷下（つぼした）等の地区の住民が「関本を終点に」と訴え、
小田原から狩川に橋を架けて関本（大雄山駅）が終点に

1920年

1921年

6/14
鉄道省の認可を受ける

1922年

4/11
動力変更
（蒸気⇒電気）

創立発起人に大雄山信徒総代側から10名追加する願い提出

4/18
株式募集

6/2
創立総会
大雄山鉄道会社創立事務所にて

新たな発起人参加

1923年

7/19
小田原にて地鎮祭

小田原起点付近より工事開始

9/1
関東大震災
築堤の崩壊や亀裂、橋台が倒壊

その他事務所建物・機械器具など損害

1924年

1925年

1月
工事再開

10/15
大雄山線開業
仮小田原-大雄山（全長9.0km）

今後、熱海線小田原駅に乗り入れ予定だったため「仮小田原駅」の名前

12/21
穴部駅停留場新設届
鉄道大臣に提出

大雄山線の歴史

1926 1927 1928 1929 1930 1931 1932 1933 1934 1935

3/31
穴部駅開業

5/19
飯田岡駅停留場新設届
鉄道大臣に提出

11/24
井細田駅開業

大雄山駅付近の映画館のお客さまのため、終電後に臨時列車を出していた

4/10
新小田原駅開設
(全長9.3km)

新小田原駅開設当時は、省線小田原駅から新小田原駅までの約300mの間、お客さまを案内する係員がいた

6/27
仮小田原駅を相模広小路駅に改称並びに位置変更届を鉄道大臣に提出

7/1
仮小田原駅を**相模広小路駅**に改称し、約20m移転

<女工さんの日給>45銭
<大雄山線片道>　28銭

一般庶民にとっては、電車賃が高かった
▼
なかなか電車は満員にはならず、経営が厳しかった

昭和恐慌

西武グループに

12/15
省線小田原駅連絡工事施工認可申請書を鉄道大臣・神奈川県知事に提出

12/28
省線連帯運輸開始契約書を鉄道省運輸局長と締結

1/31
省線各駅との連帯運輸を開始

7/11
省線小田原駅との連絡工事に着工

10月
丹那トンネル開通

6/14
省線小田原駅まで延伸
(全長9.6km)

新小田原駅・相模広小路駅廃止

小田原駅・緑町駅開業

11/5
大雄山自動車と連帯運輸契約締結

大雄山線の歴史

1936 1937 1938 1939 1940 1941 1942 1943 1944 1945

4/7
大雄山駅
新築工事着工

4/1
南足柄村
▼
南足柄町

8/23
駿豆鉄道
と合併
戦時統合令に
よる

輸送人員が
100万人を
超える

➢ 沿線軍需工場への工員や学徒動員、疎開児童等の輸送もあって、朝晩の電車が満員となる

9/1
第二次
世界大戦
勃発

12/8
太平洋戦争
勃発

8/15
第二次
世界大戦
終戦

大雄山線の歴史

1946　1947　1948　1949　1950　1951　1952　1953　1954　1955

沿線人口の増加に加え、
生活が安定し、
道了尊参詣客も
復活の兆しを見せた

9/15
アイオン台風
狩川鉄橋が流される

3/1
狩川橋梁復旧

磁気テープに映像を録画させる実験に協力
（当社社内報1985年新春号より）

磁気テープを線路におき、列車の圧力で
磁性体の重点度がどうなるか確認するため
▼
金属のローラーを使用してテープに圧力を
かける方法がつかめ、

1963年　放送用ビデオテープ発売

4/1
南足柄町
町村合併

高度
成長期

大雄山線の歴史

ポール式では、交換駅での入線時と出発時に
ポールが架線から外れないよう、車掌が車両の後ろの窓を
下ろし、架線からポールを紐で引き上げたり、
戻したりしていた

1956 1957 1958 1959 1960 1961 1962 1963 1964 1965

8/13
富士フイルム前駅
開業

6/1
社名変更
「伊豆箱根鉄道株式会社」に

伊豆箱根鉄道大雄山線に改称

木製車両
▼
半鋼鉄製
車両
（**赤電登場**）

〈集電装置〉
ポール式
▼
パンタグラフ

- マイカーの普及
- 信号の自動化、施設の近代化に合わせ、中間駅の無人化を主とした**「合理化・省力化」を推進**

高度成長期

大雄山線の歴史

- ポイント、信号機が自動化されたことにより、タブレットは通常使われなくなる
- 最高速度が従来の時速55キロから70キロ（塚原駅～和田河原駅間）にスピードアップ

【タブレット閉塞方式】
一つの閉塞区間に一つしか取り出せない玉を使い、一つの閉塞区間に入る列車を1列車に限定する方式
単線区間でのみ使用される

1966 1967 1968 1969 1970 1971 1972 1973 1974 1975

7/15
富士フイルム前駅駅舎完成

10/1
単線自動化信号装置完成

4/1
南足柄市誕生

2/1
ATS設置※

当時の敬老の日より、優先座席制（シルバーシート）が日本で初めて導入された

※国鉄時代の中央線快速電車・当社駿豆線も同日に導入

◀導入時、駅員が車内でシルバーシートを周知する様子

9/15
シルバーシート日本初導入

「動く児童画展」開始

小田原市・南足柄市在住の小学生から大雄山線に関する絵画作品を募集し、電車内に掲出して運行

- 沿線に住む児童の絵画教育の一助として始められた

8/5
甲種開始

高度成長期

オイルショックを迎え、ガソリンを大量消費するマイカーに比べ、省エネエネルギーの輸送機関として鉄道の利点が見直される

オイルショック

大雄山線の歴史

1976 1977 1978 1979 1980 1981 1982 1983 1984 1985

11/25
大雄山線電圧
600V→**1500V**

12/25
列車無線
装置・
地震計設置

3/26
塚原駅
ホーム監視用
テレビ設置

2/27
相模沼田駅
駅舎改築

2/1
小荷物
取扱い廃止

塚原駅新築竣工式

3/17
塚原駅
新築竣工式
ホーム＆
上屋完成

3/18
新型5000系運転開始
【車体の長さ】18メートル

首都圏に近く、
通勤圏にあるため当時の
都市近郊型のデザインに

5000系完成記念式典
チビッコ1日駅長

金太郎ブロンズ像完成

4/3
金太郎
ブロンズ像
お披露目式

3/18
塚原駅
使用開始

オイルショック

大雄山線の歴史

1986 1987 1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995

2/16
5000系
第2次車
運転開始

12/19
5000系
第3次車
運転開始

9月
ダイヤ改正
12分間隔で
運行
6:00～20:00

5/30
5000系
第4次車
運転開始

8/30
五百羅漢駅
駅舎完成

7/20
5000系
第5次車
運転開始

10/19
LED
時刻表示器
使用開始

3/25
和田河原駅
駅舎改築

伊豆箱根
トラベル入居

9/25
5000系
第6次車
運転開始

12/16
大雄山線
管理所改造

バブル景気

大雄山線の歴史

1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

3/19
5000系
第7次車
運転開始

3/29
踏切支障報知装置（非常ボタン）
5カ所設置

4/24
小田原駅に傾斜型自動券売機導入
（2台）

10/15
150系（赤電）引退

4/1
運賃改定
消費税率改定
（3%▶5%）

9/7
大雄山駅が関東の駅100選に

12/25
富士フイルム前駅ホーム改造

10/26
車内自動放送用再生装置

5/11
飯田岡駅駅舎改良

3/30
- **小田原駅東西自由連絡通路「アークロード」一部供用開始**
- **小田原駅改築完成**
- **自動改札機供用開始**

4月
ダイヤ改正

11/15
大雄山線開業80周年記念イベント

大雄山線の歴史

2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015

8/16
ダイヤ改正
夜間増発

10/18
緊急地震情報
システム導入

3/18
PASMO
運用開始

- 最乗寺が首都圏で80年ぶりの御真体御開帳のため、大雄山線で特別臨時電車を運行
- 僧侶や関係者らとともに道了尊御真体を小田原まで運ぶ

10/31

3/29
新久野川
橋梁架替
完了

3/11
東日本
大震災
↓
3/14～
節電のため、
間引き運転

5/4
いずはこね
ふれあい
ミニフェスタ
in大雄山
開始

3/28
小田原駅転落
防止柵設置

4/1
運賃変更
消費税改定
（5%▶8%）

3/1
大雄山駅
発車
メロディー
「金太郎」
に変更

大雄山線の歴史

ヒスイカズラ
トレイン

2016

10/1
赤電復刻カラー
（5501編成）

2017

3/9-4/26
ヒスイカズラ
トレイン
小田原フラワー
ガーデンと
コラボ

2018

3/8
鉄道むすめ
塚原いさみ
デビュー

3/21
コデ165
国鉄ぶどう色
に塗装

2019

4/4
イエロー・
シャイニング・
トレイン
（5504編成）
運行開始

9/26
ミント・
スペクタクル・
トレイン
（5505編成）
運行開始

10/1
運賃改定
消費税改正
（8%▶10%）

2020

4/7～5/25
新型コロナ
ウイルス
感染症流行に
伴う
緊急事態
宣言発令

4/16 ▶ 12/15
新型コロナウイルス
感染症流行に伴う
減便ダイヤの実施

9/11
全車両に
抗ウイルス・
抗菌加工を
順次施す

2021

1/8～3/21
緊急事態
宣言発令
2回目

4/20～8/1
まん延防止等
重点措置
1回目

8/2～9/30
緊急事態
宣言発令
3回目

2022

1/21~3/21
まん延防止等
重点措置
2回目

2023

3/18
ダイヤ改正

9/6
天狗電車
（5501編成）
運行開始

2024

3/16
運賃改定

4/5
リンドウ電車
（5507編成）
運行開始

8/29
オレンジ
トレイン
（5503編成）
運行開始

2025

3/15
ダイヤ改正

4/1
精神障がい者
割引制度導入

4/1
さがみ信用
金庫コラボ
ラッピング
電車運行開始

4/4
春めき電車
（5506編成）
運行開始

10/15
100周年
当日

【ネーミングライツ締結】

2/14 <大雄山駅>
株式会社下田組

7/29 <相模沼田駅>
足柄香粧株式会社

9/26 <小田原駅>
株式会社奥津建材

11/18 <和田河原駅>
小田原紙器工業株式会社

12/10 <緑町駅>
コムテック株式会社
<穴部駅>
株式会社リンクラインと締結

伊豆箱根鉄道総務部総務課広報担当